

④先人の教え

人間は口によって滅び
耳によって滅ぶことなし

よく見て、よく聞く

「あいつは一言多いんだ」と言われる人が、どこの会社にもいるものである。そういわれる人は、いつも余計なことをしゃべるので軽視される。「沈黙は金なり」という古い諺を持ち出そうとは思わないが、しゃべり過ぎて人を不愉快にしたり、自分の評価を落としてしまうのは愚かなことである。「よく見て、よく聞く」これが大切である。学ぶことの基本である。

二つの耳は口より上

口はひとつ、耳は二つ、しかも耳は口より上にあることを、新入社員教育の時に教えられた人は少なくないだろう。口は自分を主張する。耳は人々の主張を聞く。

管理職となる年頃になると、耳に痛いようなアドバイスをしてくれる人が次第に少なくなる。一方、部下に押しつけるようなことを言っても立場上、それは通る。そのへんの実情を心得ておきたいものである。

「聞く耳は持たぬ」とか「問答無用」は確信犯のせりふであるから、現実には存在しないはずであるが、そういった心情に近いケースを見ることがある。それは生来のものでなく、権力を持つことによって、どこかの百貨店や金融機関のワンマン経営者が新聞の特ダネになるような事件を起こした。率直に聞く耳を失ってしまったことが起こす不幸である。

人間は、しゃべることは生まれて間もなく覚えるが、黙ることはなかなか覚えられないものである。初老期を迎えた人が、自らの半生を振り返って、口をすべらしたり、一言余計にしゃべったために後悔したことを、いくつか教えあげられるであろう。しかし、「あの時に沈黙していたために……」と後悔することはほとんどないのが一般である。

つまり「話すことが悔いをもたらすことが多く、聞くことが知恵をもたらす」ことになっているのである。聞き出し上手は、乗せ上手の司会（当番）には、「聞き耳」「見る目」を持つことが大切である。

この訓話は故石田会長が平成7年3月に述べたものです

人の話をよく聞く人は、何歳になっても歳をとりません。それは何歳になっても変えることができる柔軟な頭を持っているからです。そしてとても奇抜なアイデアを生み出す人がいます。

聞く耳を持たない人は若くても年寄りである。常に謙虚で素直に聞く耳を持っていれば、歳はとりません。知恵は聞くことから学び、現実を見ることで把握します。